



2008年度分野横断的演習 実施概要報告

2009年 1月 23日

内閣官房 情報セキュリティセンター (NISC)

分野横断的演習の取組みについて

分野横断的演習は、IT障害発生時における重要インフラサービスの維持・早期復旧や事業継続等に向けた課題抽出を目的として、重要インフラ所管省庁、セプター、重要インフラ事業者等の協力を得て、2006年度から毎年度実施。

<2006年度>

官民連携の
仕組みづくり

研究的演習

演習実施の概念、演習課題の設定、演習手法の理解等を主眼として実施。

机上演習

脅威として災害を設定し、会議形式の演習を実施。

重要インフラ10分野が一堂に会し、初めての分野横断的演習を実施。



机上演習状況

<2007年度>

官民連携体制の
機能向上

機能演習

脅威としてDDoS攻撃を設定し、チーム毎に個室に分かれ、メールのみを利用した演習を実施。

NISC、所管省庁、セプター、重要インフラ事業者等から成る情報共有の仕組みが想定通り機能することを確認。



機能演習状況

<2008年度>

官民連携体制の
実効性向上

機能演習

参加者にIT障害の発生原因を知らせないなどより現実に近い状況で、起こった現象に関する関係者間の情報共有により原因を特定し、サービスの維持・早期復旧や事業継続等を行っていく機能演習を実施。

官民の情報共有、連絡連携の仕組みが、緊急時における重要インフラ事業者等のサービスの維持・早期復旧や事業継続等にとってより有益となるよう課題を抽出。



機能演習状況

松本内閣官房副長官の御出席を得て開催した2008年度分野横断的演習の実施概要は、以下の通りです。

1. 2008年度演習の目的

IT障害発生時における重要インフラのサービスの維持・早期復旧や事業継続等に向けた課題抽出

2. 検証対象

重要インフラ事業者等、セプター、関係機関、重要インフラ所管省庁及び内閣官房情報セキュリティセンターから成る情報共有の仕組み全体を対象

3. 検証課題

- (1) 緊急時の官民の情報共有、連絡・連携の仕組みの実効性確保
- (2) 平時における官民・事業者間の連絡・連携の状況
- (3) 緊急時の各主体におけるIT障害への対応要領・手順の確認
- (4) 相互依存性解析の結果
- (5) 実施細目^(注)の見直しに向けた課題の抽出

注)「重要インフラの情報セキュリティ対策に係る行動計画」の情報連絡・情報提供に関する実施細目

4. 実施日時・場所

2008年12月1日(月) 12:30～18:30

(株)三菱総合研究所 2階セミナー室、会議室



松本内閣官房副長官挨拶



全体説明状況

5. 参加者

プレイヤー、事務局等合わせて136名が参加
主な参加機関は以下の通り

(政府)

内閣官房情報セキュリティセンター、重要インフラ所管省庁

(重要インフラ分野: 10分野)

情報通信、金融、航空、鉄道、電力、ガス、政府・行政サービス、医療、水道、物流

(セプター: 10分野14セプター)

通信、放送、銀行、生保、損保、証券、航空、鉄道、電力、ガス、政府・行政サービス、医療、水道、物流

(関係機関)

(有識者)

大林厚臣 慶應義塾大学教授(検討会座長) 他



演習状況

6. 実施方法

- (1) 各分野あるいは事業者毎に小部屋に分散し、メール、電話、Webページを用いて情報交換を実施
- (2) 詳細シナリオは、事務局のみが把握し、プレイヤーにはIT障害の原因を開示せず、状況付与のみを行うという現実に近い状況で実施
- (3) 演習終了後、意見交換会を実施

7. 今後の展開

演習時のメールや電話による情報交換の内容、アンケート結果等を分析し、実施内容および検証課題の検討結果を取りまとめた後、情報セキュリティ政策会議に報告する予定。

演習で得られた成果は、官民の情報共有体制の強化策の検討に役立てるとともに、各事業者において情報セキュリティ対策の向上に向けた取り組みに活用されることが期待される。